

第26期 定時株主総会ダイジェスト

2012年8月12日(日)、幕張メッセ国際会議場で開催した株主総会の様子をお知らせします。600名を超える株主サポーターとそのご家族、ご友人にご参加いただき、誠にありがとうございました。



次回は、あなたもぜひご参加ください。
お会いできることを、楽しみにしています。

※本誌は2012年8月12日に開催された「第26期定時株主総会」のダイジェスト版となります。
総会の全容については、当社ホームページをご覧ください。

<http://weathernews.com/ja/nc/ir/supporter/soukai.html>

私たちウェザーニューズは、
1年に一度、株主サポーターの皆様と
相互理解を深めることを楽しみに、
株主総会を開いています。

ウェザーニューズは、できるだけ多くの皆様にご来場いただけるよう、日曜日に株主総会を開催しています。また、「サービス・プロジェクト説明会」や「会社見学会」など、サービスやプロジェクトのリーダーや社員に、気軽に何でも聞いていただき、コミュニケーションを深めていただく場を用意しました。これからも私たちは、積極的なコミュニケーションを通じて、相互理解を深めていきたいと考えています。

代表取締役社長

草開 千仁 (くさびらき ちひと)



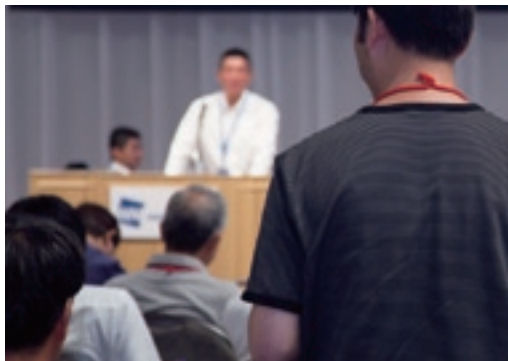
株主総会レポート

第26期定時株主総会では、ウェザーニューズが果たすべき企業使命や、グローバル化など第四成長期（2012年6月～2022年5月）に向けた事業戦略について、代表取締役の草開が語りました。以下は、代表メッセージのダイジェストです。

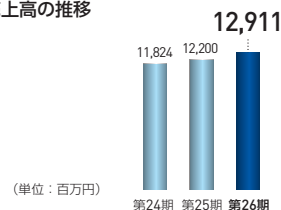
企業使命について

ウェザーニューズは、あらゆる気象分野に関するコンテンツを、官営サービスに依存することなく、自ら主体的にデータ収集し、配信することを目指しています。そのために当社が達成すべきミッションは、次の4つであると考えています。

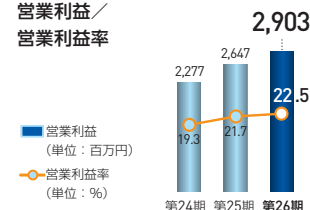
- 1) 全世界70億人の一人ひとりとともに、最多、最速、最新の気象コンテンツを創造・提供する世界最大・最強の「気象コンテンツ・メーカー」になること。
- 2) 気象コンテンツ市場のフロントランナーとして、独創的に新たな市場を創造しながら、「サポーター価値創造」と企業価値の最大化を実現すること。
- 3) 個人サポーター・企業サポーターが観測（感測）、予報、配信に参加する世界初の双方向型の気象交信ネットワークを本格的に軌道に乗せ、従来の気象サービスのあり方を革新的に変えること。
- 4) 気象をベースに、気候変動、そして環境問題にまで領域を広げ、サポーターとともに、新たな価値創造を実現すること。



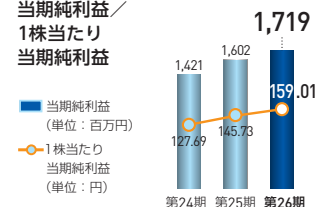
売上高の推移



営業利益 / 営業利益率



当期純利益 / 1株当たり当期純利益



第26期の事業と配当について

第26期(2011年6月～2012年5月)は、革新的サービスを実現するための技術開発・インフラ整備へ積極的に投資する一方で、トールゲート型と呼ばれる継続的コンテンツサービスの浸透による売上増加により、増収・増益となりました。当社の経営理念「高貢献、高収益、高分配」に則り、期末配当は25円、年間配当は40円に増配させていただきました。

今後の成長に向けて

ウェザーニューズは、創業以来、第一成長期(1986年6月～1995年5月)は「事業の成長性」、第二成長期(1995年6月～2004年5月)は「ビジネスモデルの多様性」、第三成長期(2004年6月～2012年5月)は「経営の健全性」を目指

してきました。第27期(2012年6月～2013年5月)は、「革新性」を通じて本格的なグローバル展開を目指す第四成長期の1年目にあたります。

新たなマーケットをつくる「革新性」と、それを実現する技術をつくるための「革新性」をテーマに、引き続き、航海気象のグローバル展開と、アジアを中心とした空と陸の交通気象サービスの展開、WNI衛星などの“無常識”なインフラ創造を進めていきます。

この後の質疑応答のコーナーでは、なるべく多くの質問に対して、担当役員から真摯に回答させていただき、相互理解を深めました。また、株主サポーターの皆様からは、さまざまなアドバイスもいただきました。ありがとうございました。

株主総会会場の隣室では、50を超えるサービス・プロジェクトの説明会を開催しました。各サービス・プロジェクトのリーダーが、パネルや映像を使って説明を行い、株主サポーターやご家族・ご友人との交流を深めました。



VP

航海気象サービス

航海気象グループ
チームリーダー
河邊 照之

「お客様の目となり、耳となって航海をサポートすることで、
外航船 10,000 隻への OSR サービス提供を目指します」

「船乗りの命を守りたい」、それがウェザーニューズの出発点でした。そして近年では、航海の安全性に加え、経済性も重要になってきました。燃料費の高騰を背景に、安全かつ定時に到着するには、どのルートをごんなんスピードで航海するのがよいか、エネルギーのベストミックスに関する情報が求められます。「OSR (Optimum Ship Routeing)」は、当社が船会社の目となり、耳となって、安全性・定時性・経済性の高い航海をサポートするサービスです。現在、当社がサービスを提供しているのは全世界で約 6,000 隻、そのうち OSR サービスをご利用いただいているのは約 1,100 隻ですが、今後 10 年で 10,000 隻への OSR サービス提供を目指していきます。

また、海洋情報の新たなインフラづくりにも取り組んでいます。お客様の船舶にセンサーを搭載し、船の揺れをもとに海洋情報を収集・分析し、新たなサービス作りにつなげていきます。

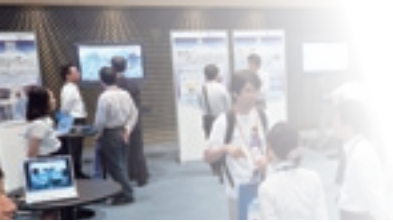
Supporter's Message

「“世界一の民間気象会社”を誇りに、
頑張ってください」

株主サポーター
佐藤 和男さん



ウェザーニューズは、その前身のオーシャンルーツの頃から、興味を引かれる会社でした。株主総会に参加するのは今回が初めてですが、ちょうど夏休みで、娘たちと一緒に来ることができてよかったです。プロジェクトの説明も分かりやすく、北極海航路の実現に向けて衛星を打ち上げるとことを知り、楽しみになってきました。



「空の情報交信台を目指して、安全・快適・経済的なフライトをサポートします」

ウェザーニューズは、大型民間飛行機からヘリコプターまで、あらゆる航空事業者をサポートしています。安全で経済的なフライトには、目的地の気象条件を加味した運航・欠航判断や、燃料の搭載量判断はもちろん、乱気流や火山灰などを回避するための最適ルートや高度の支援も欠かせません。今後は、特に、通信インフラも含めたフライト中のサポート[Flight Following Support]に注力し、より安全・快適・経済的なフライトを支援していきます。

サービス展開エリアについては、日本、中国、韓国をはじめ、世界的に需要が見込まれるアジアのエアラインへのサービスを拡充していきます。また、WITHレーダーなど独自インフラの整備も進め、より精度の高い情報提供によるサポートの強化を図っていきます。

Supporter's Message



「気候変動が不安、だからウェザーニューズに注目しています」

株主サポーター
原 直美さん

竜巻などの被害も日本で発生するようになり、より精度の高い情報などが求められています。一方、アジアのリーダーの方々のお話を聞き、海外に比べて、いかに日本の気象情報の信頼性が高いのかも知りました。ウェザーニューズに対する社会からの注目度も高まっていて、それは株価にも表れていると思います。



Sky

航空気象サービス

航空気象グループ
オペレーションリーダー
高森 美枝





RD/R

道路・鉄道気象サービス

鉄道気象グループ
オペレーションリーダー
佐藤 修一

「気象による鉄道・道路災害ゼロを目指し、 日本からアジア各地へサービスを拡大していきます」

鉄道会社も、高速道路管理会社も、気象リスクに直面しています。日本の道路状況を見ると、交通ストップの原因の7割は、豪雨、強風、豪雪などの気象によるもので、残りの3割が事故や工事によるものです。鉄道会社ならば、利用者の安全を確保するために運行計画を変更する一方、安定輸送のために、なるべく早くダイヤを通常に戻すことが必要です。高速道路管理会社ならば、いつ通行止めを開始し、いつ解除するか、また除雪などのためにどの程度の人員が必要かといった情報も重要になります。

気象リスクに直面しているのは、日本の鉄道や高速道路管理会社だけではありません。ウェザーニューズは、北海道から沖縄まで、全国に気象情報サービスを提供しています。日本での実績をもとに、中国、韓国、台湾などでも、気象による災害ゼロを目指したサービスを提供していきます。

Supporter's Message

「みんながもっと天気予報に興味を持つように、 アピールすることも大事」

株主サポーター 野崎 政子さん (写真左)
株主サポーター 牧野 百合子さん (写真右)



株主サポーターからの質問に、草開社長が歯切れよく、分かりやすく答えているのを感じながら聞いていました。ウェザーニューズの顔として、もっといろいろなところに出てほしいと思います。(野崎さん)

たくさんの人知ってもらうことは大事です。私も、彼女からウェザーニューズの話をかされ、自分でもインターネットなどで調べているうちに、魅力を感じて株主サポーターになったくらいですから。(牧野さん)



「Join & Share」をコンセプトに、 サポーターの皆様とともに新しい価値を創造します」

ウェザーニュースは、これまでも「ゲリラ雷雨防衛隊」など、サポーターの皆様に参加いただき、情報をシェアすることで、新たな価値を創造してきました。現在、ウェザーリポーターの数は100万人、1日のレポート数は30万通に達しています。視聴者参加型の天気番組「みんなでソラをライブ」も、15局で放送されています。また、スマートフォン向けアプリケーションのダウンロード数も、iPhone、Androidを合わせて700万ダウンロードを超えました。

今後は、グローバル・アプリケーションの開発によって、グローバル・リポーター1億人を目指し、今までにない“ことづくり”にチャレンジします。

Supporter's Message



「世の中の役に立ちそうな会社だと思い、 株主サポーターになりました」

株主サポーター
井上 雅喜さん

私の朝はBS 910chウェザーニュースで始まり、夜もBS 910chで終わります。株主サポーターになったきっかけは、BSやウェブサイトで気象情報を見ていて、世の中の役に立ちそうな会社だと思ったからです。今後も、さらなるサービスの拡充に期待します。株主総会では、私も質問させていただきましたが、話しやすい雰囲気、質問への回答も満足のいくものでした。



Trans- media

トランスメディアサービス
(B to S 事業)

トランスメディアグループ
マーケティングリーダー
大木 雄治



70億人の情報交信台になることを目指して。 アジアのリーダーたちからのメッセージ

第四成長期、ウェザーニューズは陸と空の本格的なグローバル展開をまずアジアから始めます。
そこでアジアのリーダーから株主サポーターの皆様へ各国のマーケットのポテンシャルや
今後のサービス展開についてご紹介しました。

2011年7月26日～28日にソウル市内で500mmを超える大雨が観測されるなど、韓国各地で洪水や地滑りなどによる交通機関への大きな影響が出ました。現在、ソウルSSBでは、航海気象サービスおよび航空気象サービスの拡大に取り組んでいますが、今後は、鉄道・道路気象サービスへのニーズも高まっていくと考えています。



韓国

「鉄道・道路気象サービス
へのニーズは高い」

ソウル SSB

李 庸燾

中国

「広範囲で整備される道路、
鉄道に対応策サービス
を展開」

上海 SSB

辛 承敏



上海SSBでは、これまで、航海気象サービスおよび航空気象サービスを中心に提供してきました。中国は国土が広く、高速鉄道や高速道路は日本よりも長距離かつ広範囲に整備されています。一方、気象観測機は各地に設置されているものの、情報が活用できていないのが現状です。お客様のニーズに合わせた対応策サービスの提供が求められます。

台北SSBでは、航海気象サービスや航空気象サービスの拡大に取り組んでいます。航海気象サービスの分野では、燃料費の高騰を受けてデイリーの気象分析も始めており、北極海航路への関心も高まっています。台湾の文化は日本と近く、また、日本の技術は高品質というイメージがあります。鉄道や道路気象の分野でも、高品質なサービスが待たれています。



台湾

「高品質な日本の技術を
ベースに、台湾のニーズに
合ったサービスを展開」

台北 SSB

呂 欣穎

*SSB = Strategic Sales Base、戦略的営業拠点

シンガポール

「世界の船舶が集まる“現場”
から、お客様のニーズに合った
サービスを提案」

シンガポール SSB

井元 修司



シンガポールは、世界の人・モノ・情報が集まる拠点です。ここには、世界 80 社の船舶が集まり、燃料の補給も行われます。シンガポール SSB は、世界のお客様の船舶をモニタリングするオペレーション部隊として機能しています。航海気象サービスの拡大とともに、今後は、航空気象サービスの展開にも注力していきます。

ムンバイ SSB では、現在、航海気象サービスに注力していますが、将来的には、航空、鉄道、道路気象へも拡大していきます。インドでは、モンスーンの影響によって、空や陸の交通が大きな影響を受けます。一方、テレビのチャンネルは 140 あるものの、天気予報番組はなく、現在と過去の気象情報が放送されるのみです。気象予報サービスに対するニーズは、非常に高いと考えています。

インド

「航空・道路など
気象の“予報”に対する
ニーズは高い」

ムンバイ SSB

カシナダン・サラワナン



ネパール

「ネパール国内の
重要な移動手段、
航空の安全確保が重要」

カトマンズ SSB

シャキャ・アニル



ヒマラヤを訪れる人々はもちろん、多くの観光客の皆様が安全にネパール旅行を楽しんでいただくことは、国の経済にとっても重要です。国内の移動手段は航空がメインで、航空会社は 12 社、飛行場は 45 カ所あります。多くの飛行場は高山にあり、気候も変わりやすいため、カトマンズ SSB では、安全な運航のための高品質な航空気象サービスの普及に注力しています。



WNI衛星 Project

WNI 衛星プロジェクト
須山 洋治



「北極海航路情報サービスの実現に向けて、 2012年11月にWNI衛星を打ち上げます」

ウェザーニューズは、北極海航路の情報を収集・提供するための革新的インフラとして、いよいよ今年11月にWNI衛星を打ち上げます。この衛星は100分で軌道を1周し、地球上のさまざまな情報を送ってきます。北極海航路は、アジアからヨーロッパへの航路を短縮するルートであり、しかも海賊がない安全なルートであることから、お客様の関心も高まっています。2013年1月よりバルト海、セントローレンス湾、オホーツク海の水氷観測を開始し、5月には北極海の水氷観測を開始する予定です。また2013年2月には、個人サポーターの方々にも参加いただき、気候変動の原因の一つと考えられている大気中のCO₂濃度の感測も開始します。

Special Programs

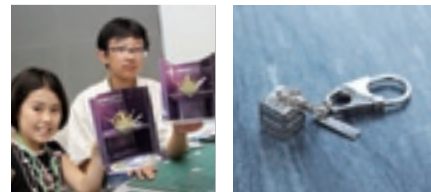
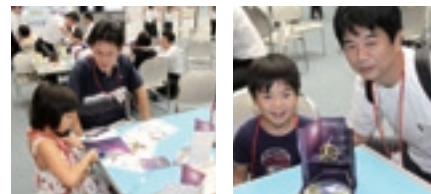
ソラヨミ道場

親子でお楽しみいただける「ソラヨミ道場」を開催しました。会場内でクイズ形式の教室を開催し、その後、実際に外へ出て「ソラヨミ」を体験。楽しい夏休みのひとときの記念に、「ソラヨミマスター証」を発行しました。



WNI衛星ペーパークラフト/ キーホルダー

プロジェクト説明会場には、「WNI衛星ペーパークラフト」コーナーを設置。株主サポーターのお子様たちにお楽しみいただきました。また、株主サポーターの皆様には、WNI衛星キーホルダーを記念にお持ち帰りいただきました。



From WNI Staff

**「株主サポーターの皆様に、
来てよかったと思っていただければ
最高です」**

会場からシャトルバスで会社へ移動し、「幕張天気街（ウェザーストリート）」で気象情報サービスが提供される様子などをご覧くださいました。私たちのサービスは、相互信頼のもとに、喜んでいただけることを基本にしていますし、それは会社見学会も同じです。来年も、またお会いできることを楽しみにしています。



会社見学会統括担当
予報センター 喜田 勝



**TSUNAMI
Project**

TSUNAMI プロジェクト
日置江 桂

**「2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、
気象会社の使命としてプロジェクトを立ち上げました」**

TSUNAMI プロジェクトは、沿岸に設置したマリンレーダー（船舶衝突防止用小型レーダー）を利用し、津波の早期検知と早期避難の実現を目指しています。現在、東北エリアを中心に10カ所にレーダーを設置し、24時間365日の監視を開始しています。港湾や交通関連企業をはじめ、自治体、自衛隊など、このプロジェクトに高い関心を持っていただいているサポーターは多く、9月には、「どのような情報を、どのように伝えるか」といった訓練サービスを開始します。また、今後のレーダー設置については、南関東や東海地方を予定しており、九州、日本海側についても展開候補として考えています。



会社データ

会社概要 (2012年5月31日現在)

商号

株式会社 ウェザーニューズ

設立

1986年(昭和61年)6月

本社所在地

〒105-0014
東京都港区芝3-1-14
日本生命赤羽橋ビル

グローバルセンター所在地

〒261-0023
千葉県千葉市美浜区中瀬1-3
幕張テクノガーデン

電話番号

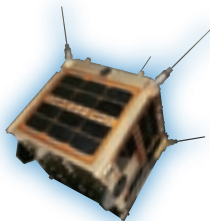
043(274)5536 (IR代表)

資本金

17億6百万円

社員数

617名
[このうち海外グループ92名]



役員

代表取締役社長	草開 千仁
代表取締役副社長	宮部 二郎
取締役副社長	戸村 孝
常務取締役	志賀 康史
取締役	アントニオ・ブリッツォ
取締役	森田 清輝
取締役	石橋 知博
取締役*	山本 雅也
取締役*	岩佐 秀徳
取締役*	安部 大介
取締役	松尾 修吾 (社外取締役)
常勤監査役	湯川 智夫
監査役	立野 嘉之 (社外監査役)
監査役	水野 創 (社外監査役)

※ 新任取締役のごあいさつ



山本 雅也

グローバルな常識インフラとして通用するような、無常識かつ革新的なインフラに取り組んでいきたいと思っています。



岩佐 秀徳

第四成長期にふさわしい、革新性のあるサービスを海運会社の皆様と一緒に開発し、ビジネスの継続的な成長を図りたいと思っています。



安部 大介

革新的なインフラを運営にも活用し、サービスのグローバル運営や展開をしっかりと行っていきたいと思っています。

